

ヤマコウモリ

Nyctalus aviator Thomas

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

樹洞にのみ生息し、季節や性により使う樹洞が変化するため、比較的多くの樹洞が存在する森や林がないと生存が難しい。

国内分布

北海道、本州中部以北、対馬、奄岐、福江島、沖縄島だけである。

県内分布

ねぐらは、金沢市内の1箇所である。これまでの生息記録は、白山周辺1箇所と金沢市内の3箇所である。

生態

昼間の生息場所は樹洞。出産・哺育は雌だけの20～50頭以上の大きな集団で行われる。その間、雄は1～十数頭に分散して小樹洞、小鳥用の巣箱などを利用する。それ以外の季節は雌雄一緒になり、50～100頭を越えるより大きな集団で大樹洞を利用する。

生息地の条件

樹洞を持つ木の多く存在する森や林。

生存の危機

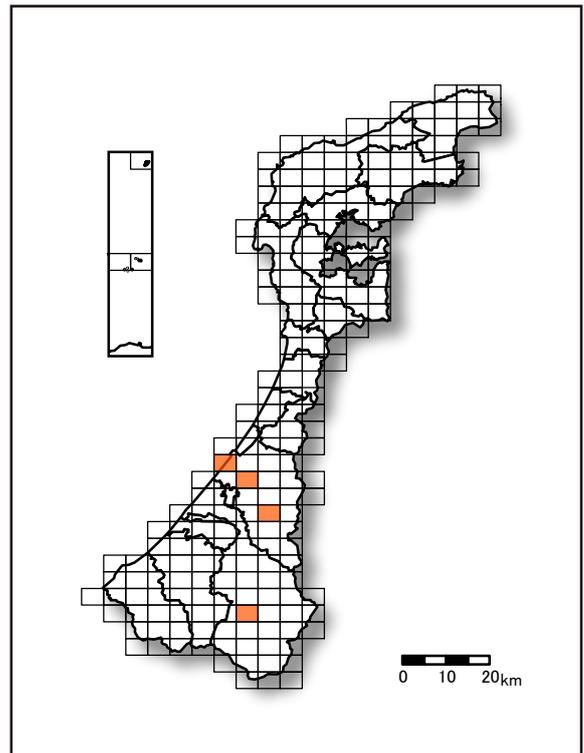
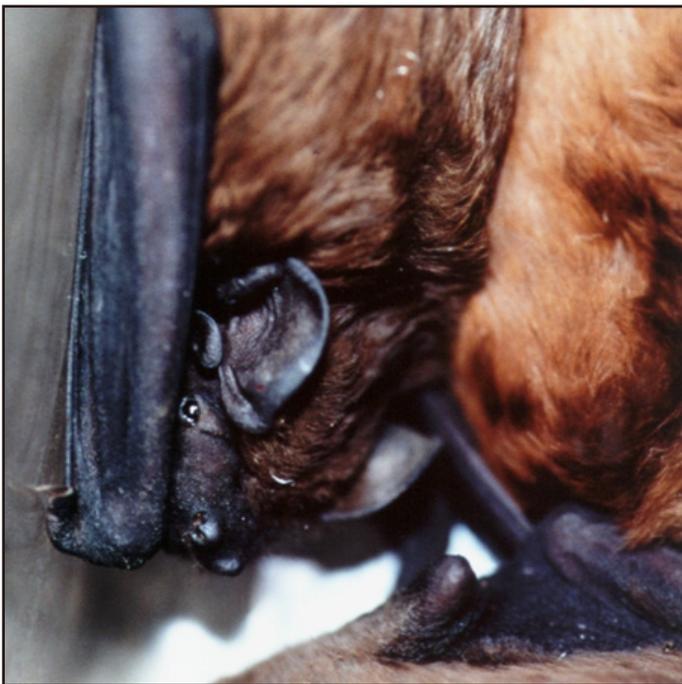
樹洞を持つ木の多く存在する森や林が徐々に減少しているため、全国的に生息数は減少している。(A)

特記事項

採餌している個体が捕獲されたことから白山山系のどこかにねぐらがあるものと考えられる。石川県に生息する本種は、きわめて数が少ないものと考えられる。

参考文献

上馬康生・南他喜男 1984. 金沢市内で発見されたヤマコウモリの冬眠例. 石川県白山自然保護センター研究報告. 11. 85-86.
山本輝正 1990. 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会(編). 137-142. 石川県高等学校研究会生物部会.
山本輝正 1998. 3-1-2 哺乳類コウモリ目, 環境庁委託 平成9年度 生態系多様性地域調査(白山) 報告書. 142-147.



県内の分布